

11月13日(火)

言いようもない深いうめき

聖書朗読 ローマ 8：22～27

御霊も同じようにして、弱い私たちを助けてくださいます。私たちはどのように祈ったらよいかわからないのですが、御霊ご自身が、言いようもない深いうめきによって、私たちのためにとりなしをしてくださいます。 ローマ 8：26

パウロは、この世の人生は辛いものだと言っています。この世の歩みには、涙、望ましくない変化、失望があり、悲劇や言葉では説明出来ないような喪失を経験することがあります。けれども、パウロは、人生の様々な経験を通して、どのような状況にあっても神様は私たちを愛しておられるということを確認していました。

パウロも記しているように、人には言葉では表現できない思い、深い悲しみや当惑があります。けれども、主は聖霊と共に私たちとともにおられ、弱く失意のうちにある私たちが心のうちを表現するのを、言いようもない深いうめきによってとりなし助けてくださいます。それによって、私たちは心の奥底にある思いを、神様に打ち明けることができるのです。

イエス様がこの地上に来られ、神様の御前に跪き助けを求める肉の経験をされたことを覚えてください。それによって、私たちは、この地上での試練を乗り越えるために必要なものすべてが与えられています。

パウロは、私たちが、愛され独りではないことを知るよう願っています。ヨハネ14：15～18で、イエス様は、聖霊が私たちとともにおられることを約束しておられます。私たちが神様に信頼し、どのような状況にあっても、神様のみもとに行くことを覚えているなら、私たちがこの地上に必要なものはすべて与えられます。

讃美歌 500

祈り 親愛なる主よ。聖霊を感謝します。私たちを愛し、決して独りにはなさないことを感謝します。

イエス様のお名前によって祈ります。アーメン。

マーシャ・D・ダウウェル
テキサス州 ヘロテス

11月14日(水)

働きを求めて

聖書朗読 ローマ 15：22～33

なまけ者よ。蟻のところへ行き、そのやり方を見て、知恵を得よ。 箴言 6：6

まともに仕事もしていないのに、忙しそうにしている人がいませんか。そのような人はただ周りにおせっかいをやって自らを忙しくしているのではないのでしょうか。そうした人は、「仕事で気をもんだりしない。諦めて脇へやって寝てしまうよ」と言うでしょう。

一方、働きぶりは生産的でいつも忙しくしている人もいます。このタイプの人たちは、呼吸するのと同じように、仕事をするのも自然な事なのでしょう。すでに定年を迎えていても、周囲の人に仕えるのに忙しくしている人もいます。

パウロは、後者のタイプの人でした。パウロは、もう自分の働くべき所がなくなったと感じるまで(ロマ15：23)、ローマ帝国の東の果てまで福音を宣べ伝える働きに忙しくしていました。そして、その後帝国の西の端まで行き(ロマ15：24)福音の働きをしたいと思いましたが、その前になすべき仕事、エルサレムの教会での奉仕がある(ロマ15：25)と言っています。

私たちはどちらのタイプの間人でしょうか。常に働きを求め自分の時間を生産的な働きのために費やしているのでしょうか。それとも、出来るだけ仕事は避け、気晴らしに終始しているタイプでしょうか。生産的な働きに身を捧げているのでしょうか。クリスチャンはよく働く者であるべきです。私たちは自分の手をもって正しい仕事をし、骨折って他の人を喜んで助ける者でなければなりません(エペソ4：28)。私たちの主は常に働いておられます。使徒たちも働き人であり、彼らが仕事を放棄したという記述はどこにもありません。

讃美歌 369

祈り 主よ。私たちの怠惰な姿勢をお赦しください。時間を無駄にしてしまうことをお赦しください。これからの日々、もっと勤勉で、実を結ぶ歩みをさせてください。あなた様の御子に少しでも似た者とさせてください。

イエス様のお名前によって祈ります。アーメン。

サイヤー・サリスバリー
オハイオ州 トレド

11月15日(木)

日 々 新 た に

聖書朗読 IIコリント 4:8

ですから、私たちは勇気を失いません。たとえ私たちの外なる人は衰えても、内なる人は日々新たにされています。 IIコリント 4:16

日常繰り返し行なっていることの一つに、「更新」というものがあるでしょう。例えば、運転免許証や保険、パスポートなど、更新を必ずしなくてはならないものがあります。この「更新」という点で、この肉体も睡眠を取ることで新たに活力を得、また、心静かに会話をすることで人との関係も新たにされるものでしょう。自然も、長い冬眠状態が終わると、新たに生まれ変わっていき、その新たな自然の成長は大変美しく、私たちの感覚をリフレッシュさせてくれるものであり、また霊的にも大切なものです。

今日の聖書箇所は、新たにされるという点で、私たちに励ましを与えてくださるものです。キリストにある私たちは、必要なときにいつでも、絶えず生まれ変わるといって究極的な恵みに与ることができるのです。その恵みに終わりはなく冬眠もありません。その代価は既に支払われ、私たちはただそれを求めればよいのです。神様は、私たちが新たに生まれ変わることが必要であることをご存知であり、私たち人間が生まれ変わるのに最上のものであるご自身を与えてくださいました。落胆する時には、神様が日々私たちを新たにしてくださることを覚えて、リフレッシュし新たにしていきたいと思います。

讃美歌 538

祈り 親愛なる主よ。私たちがぐじかれないう、あなた様にあつて日々生まれ変わる機会をお与えくださっていることを感謝します。
イエス様のお名前によって祈ります。アーメン。

スーザン・K・ギボニー
カリフォルニア州 マリブ

11月16日(金)

神 に な ら う

聖書朗読 エペソ 4:29~5:2

神にならう者となりなさい。

エペソ 5:1

今日の聖書箇所を軽く読み飛ばさないようにしてください。パウロはこの箇所を書いたとき、ただ自分の思いや響きは良いが達成できないようなことを書き連ねたのではありません。よく読むと、そこには、私たちが神様にならう者となるべきだということが書かれているのです。

けれども、これは決して私たちが神に成り上がるものではなく、神様のご性質を求め、ならう者となるということを意味しています。そのご性質とは、神聖、善良、栄光、純潔、義、愛、平和、公正、赦し、そして忍耐です。こうしたご性質にならうことが、私たちに求められています。私たちの歩みは単に日常の繰り返しではなく、また、富や名声を愚かに求めるものであってはなりません。キリストの愛と犠牲により示された神様のご性質にならう歩みをするのが求められているのです。

私たちの多くは、常に誰かのまねをし、その人に注意を向け、言動を尊敬し、哲学をまねたり、指導に従おうとするものではないでしょうか。私たちのならうべき第一のお方は、神様となっているか吟味してみましよう。

讃美歌 374

祈り 親愛なる主よ。私たちの心を動かし、日々、あなた様に近づけてください。あなた様を、私たちがならうべき第一のお方とさせてください。愛と犠牲の歩みが出来るよう助けてください。

イエス様のお名前によって祈ります。アーメン。

ジェス・ピーターソン
テキサス州 ラボック

11月17日 (土)

新たな愛の力

聖書朗読 ピリピ 3:4~8

だれでもキリストのうちにあるなら、その人は新しく造られた者です。

Ⅱコリント 5:17

パウロはダマスコで、これまでとは全く異なる新たな視点が与えられました。それまでのパウロの神様の御愛についての視点は限られたものでしたが、神様のご計画にはすべての人間が招かれているのだという事に目が開かれたのです。彼は自分の成し遂げたことを誇る人生を捨て、キリストを受け入れ、キリスト者の迫害を止めました。迫害の先頭に立っていた彼は、それがどのようなものであるかよく分かっていました。パウロは、かつての古い自分の歩みには何の未練もなく、新たな歩みを始めました。

私は子どもの頃、なかなか遊ぶのを止められない大好きな組み立ておもちゃを持っていました。野球も好きでやっていて、グローブとそれなりの素質はあったと思うのですが、近所の子供達の中では、他の子よりも歳が若干若かったせいで、チームを作るときはいつもメンバーに入れてもらえませんでした。年下だったのと、走るにはちょっと太っていたこともあります。しかしある日、家の中で組み立ておもちゃで遊んでいると、年上の仲間が声をかけてくれました。「ライト守れるか?」。私は急いで外へ飛び出しました。それ以来、組み立ておもちゃでは遊ばなくなりました。

ここで言いたいのは、新たな愛の力の凄さです。新たな愛が与えられると古いものは追いやられます。『だれでもキリストのうちにあるなら、その人は新しく造られた者です。古いものは過ぎ去って、見よ、すべてが新しくなりました。』とあります。私たちは、この世のものを追い求める限り、キリストにあって成長することはできません。けれども、イエス様を愛するとき、私たちには、新たな視点が与えられるのです。

讃美歌 342

祈り 親愛なる主よ。新しい視点をもって周りの世界を見ることができるようになってください。新たな愛の力を与え、「新しく造られた者」としてください。

イエス様のお名前によって祈ります。アーメン。

パット・アンドリュウ
テキサス州 アビリン

11月18日(日)

夢遊病

聖書朗読 Iテサロニケ 5:1~11

ですから、ほかの人々のように眠っていないで、目を覚まして、慎み深くしていきましょう。 Iテサロニケ 5:6

夢遊病の人の動きを見たことがありますか。彼らは自分の行動や周囲の状況が全く分からず眠ったまま歩き回るため、目が覚めた時、危険な状況に身を置いていることに気づくこともあるのです。

今日の聖書箇所ではパウロは、肉体でなく霊的な面での夢遊病、眠ったまま歩むことの危険について警告を発しています。霊的に眠った状態にいる人は、周囲の環境や自らの行動による影響がどのようなものであるか気づかずに歩んでいるので、目覚めた時危険な状況に身を置いていることに気づき、なぜここにいるのか、どのようにして抜け出そうかと思い巡らすこととなります。

パウロはそのような窮状を避けるための教訓として2つの事を挙げています。まず、常に警戒心を持つこと。自分の置かれた環境について、それがどのようなもので自分をどう形作るかを知り、サタンのごまかしの策略に気をつけること。サタンは神を真似ることで、私たちがたぶらかし自分に従わせようとします。常に「この選択は神様に自分を近づけるものだろうか、それとも、神様から引き離すものだろうか」と問いながら、先を見通し自分の選択がもたらす究極の結果を考えること。

第二の教訓は自制です。一旦神様のみこころにかなう選択をすると決めたら、神様のみこころに背くような思いがあったらそれを止め、他の道を選ぶこと。

自らの歩みを霊的夢遊病者の歩みとしないようにしましょう。いつも注意を怠らず、自制していきましょう。それによって、私たちは究極的に『主とともに生きる』(Iテサロニケ 5:10) ことができるのです。

讃美歌 370

祈り 主よ。私たちがいつも注意を怠らず、良いことを行う機会に備え、そして、天の故郷に呼んでいただけるよう、私たちをお導きください。

イエス様のお名前によって祈ります。アーメン。

ジャン・ノックス
テキサス州 グランバリー